



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月11日

上場会社名 オカダアイオン株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6294 URL <http://www.aiyon.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡田 祐司
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理部門担当 (氏名) 前西 信男 TEL 06-6576-1281
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	11,680	16.1	1,105	8.1	1,168	13.9	785	19.0
2022年3月期第2四半期	10,056	18.9	1,022	39.0	1,026	35.3	659	43.5

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 1,126百万円 (47.8%) 2022年3月期第2四半期 762百万円 (76.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	97.97	97.53
2022年3月期第2四半期	82.44	81.99

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	26,575	13,423	50.4	1,670.03
2022年3月期	25,516	12,544	49.1	1,561.64

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 13,397百万円 2022年3月期 12,518百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	32.00	32.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	38.00	38.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,500	10.8	2,065	16.5	2,128	17.7	1,425	19.7	177.70

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	8,378,700株	2022年3月期	8,378,700株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	356,515株	2022年3月期	362,315株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	8,019,285株	2022年3月期2Q	8,005,485株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済及び世界経済は、引き続き新型コロナウイルス感染防止と経済活動との両立が求められる中、感染者数の減少や行動制限の緩和等により持ち直し、緩やかな回復基調となりました。一方で、ロシア・ウクライナ問題に端を発した資源・エネルギー価格高騰や米国の金融引き締めとそれに伴う加速度的な円安の進行等により企業の経営環境は大きく変化し、先行きの景気不透明感が高まっています。

このような環境のもと、当社グループは昨年からスタートした長期ビジョン「VISION30」の方針のもと、今期からの3ヵ年計画、中期経営計画「ローリングプラン FY2022～FY2024」を策定し、足許の堅調な解体・インフラ工事需要に対応した増産と生産性向上を軸にした生産体制強化を注力課題として取組み、更なる持続的成長と企業価値向上を図っています。

その結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高11,680百万円（前年同期比16.1%増）、営業利益1,105百万円（前年同期比8.1%増）、経常利益1,168百万円（前年同期比13.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益785百万円（前年同期比19.0%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間のセグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

国内セグメントは、昨年からの解体環境アタッチメントを中心に高水準の受注残を維持しており、増産や商材の確保に注力してきた結果、売上高9,283百万円（前年同期比14.3%増）となりました。機種別には、主力の圧砕機は再開発やビル・工場等の建替等による解体需要が引き続き順調で売上高3,796百万円（前年同期比13.3%増）、油圧ブレーカも売上高498百万円（前年同期比11.1%増）と順調に伸ばすことが出来ました。一方で、つかみ機は金属スクラップ処理や木造解体、災害復興等の需要は引き続き堅調で受注残を抱えているものの、大型スクラップローダの納期ズレによる販売台数減の影響などもあり売上高620百万円（前年同期比11.2%減）となりました。また、グループ連携による販売強化を進めている林業機械は、昨年後半に投入した新商品「ハイブリッドバケット」の販売が寄与し売上高571百万円（前年同期比64.2%増）、ケーブルクレーン事業は大型案件のダム工事売上が寄与したことや再生可能エネルギーとして見直されている水力発電所の改修工事が引き続き順調で売上高1,235百万円（前年同期比102.7%増）となりました。輸入商材の大型環境機械に関しては、納期の長期化や円安進行による輸入価格上昇が影響し149百万円（前年同期比66.5%減）に留まりました。営業所リニューアルにより体制整備を図ってきたアフタービジネスについては、原材料売上高が952百万円（前年同期比15.9%増）、修理売上高は466百万円（前年同期比18.0%増）となりました。セグメント利益は鋼材価格の上昇等利益圧迫要因があるものの、特にケーブルクレーン事業の利益寄与が大きく、872百万円（前年同期比14.9%増）と増益となりました。

海外セグメントは、売上高2,397百万円（前年同期比23.9%増）となりました。主力地域の北米では順調に経済活動が回復し売上高1,387百万円（前年同期比19.8%増）、欧州は好調な市況の中で販売代理店網の充実が寄与し売上高562百万円（前年同期比50.6%増）、アジア地域は経済全般が好調な台湾向けが増加したこと等により売上高304百万円（前年同期比17.1%増）と重点3地域で売上は順調に推移しました。ただし、昨年からの引き続き海上運賃の値上げ影響を受けていることに加えて、昨年からのアメリカ子会社の「給与保護プログラム(PPP)」の利益下支え要因がなくなったこともあり、セグメント利益は259百万円（前年同期比7.1%減）と減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は、26,575百万円（前連結会計年度末25,516百万円）となり1,058百万円増加しました。建設仮勘定が562百万円、現金及び預金が524百万円それぞれ減少しましたが、商品及び製品が580百万円、原材料及び貯蔵品が514百万円、受取手形及び売掛金488百万円、土地が361百万円、建物及び構築物が222百万円それぞれ増加したことが主な要因です。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、13,152百万円（前連結会計年度末12,971百万円）となり180百万円増加しました。長期借入金が364百万円、流動負債のその他が206百万円それぞれ減少しましたが、短期借入金が704百万円、未払法人税等が117百万円それぞれ増加したことが主な要因です。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、13,423百万円（前連結会計年度末12,544百万円）となり878百万円増加しました。剰余金処分の配当金支払256百万円を行いました。親会社株主に帰属する四半期純利益785百万円を計上したこと及び、為替換算調整勘定が348百万円増加したことが主な要因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の通期連結業績予想については、第3四半期以降も需要面は堅調に推移するものと見込んでますが、調達部品の納期問題等に伴う生産遅延等、先行き不透明感が残ることから、前回発表の下半期予想数値は変更しておらず当第2四半期連結累計期間の実績値を加味して修正したものです。

尚、今後の業績の動向により、通期業績予想の修正が必要となった場合には、すみやかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,601,602	3,077,041
受取手形及び売掛金	4,858,376	5,346,987
商品及び製品	3,753,046	4,333,328
仕掛品	324,039	285,260
原材料及び貯蔵品	3,311,883	3,826,532
その他	592,213	665,733
貸倒引当金	△1,201	△1,256
流動資産合計	16,439,960	17,533,628
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,199,241	3,422,241
機械装置及び運搬具(純額)	554,662	556,963
土地	2,537,068	2,898,345
建設仮勘定	983,855	421,160
リース資産(純額)	267,467	248,137
その他(純額)	33,931	30,922
有形固定資産合計	7,576,228	7,577,770
無形固定資産		
のれん	20,946	—
その他	428,358	434,075
無形固定資産合計	449,305	434,075
投資その他の資産		
投資有価証券	353,100	310,748
長期貸付金	230,000	230,000
繰延税金資産	377,700	379,473
その他	93,440	112,868
貸倒引当金	△3,273	△3,273
投資その他の資産合計	1,050,967	1,029,817
固定資産合計	9,076,501	9,041,663
資産合計	25,516,461	26,575,291

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,075,798	4,129,701
短期借入金	2,643,831	3,348,430
1年内返済予定の長期借入金	981,240	955,499
未払法人税等	389,069	506,173
賞与引当金	258,712	267,784
役員賞与引当金	58,915	1,575
株主優待引当金	55,448	11,389
その他	1,174,451	967,590
流動負債合計	9,637,468	10,188,145
固定負債		
長期借入金	2,564,884	2,200,005
退職給付に係る負債	550,227	570,178
その他	219,340	193,846
固定負債合計	3,334,451	2,964,030
負債合計	12,971,919	13,152,176
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,221,123	2,221,123
資本剰余金	2,275,697	2,280,348
利益剰余金	8,086,357	8,615,492
自己株式	△241,770	△237,901
株主資本合計	12,341,407	12,879,063
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	89,553	58,424
繰延ヘッジ損益	11,112	34,370
為替換算調整勘定	76,663	425,452
その他の包括利益累計額合計	177,329	518,246
新株予約権	25,805	25,805
純資産合計	12,544,542	13,423,115
負債純資産合計	25,516,461	26,575,291

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	10,056,984	11,680,530
売上原価	7,065,528	8,332,588
売上総利益	2,991,455	3,347,942
販売費及び一般管理費	1,968,545	2,242,574
営業利益	1,022,910	1,105,367
営業外収益		
受取利息	2,494	2,875
受取配当金	5,010	6,773
固定資産売却益	6,376	4,246
貸倒引当金戻入額	41	—
為替差益	4,431	74,529
持分法による投資利益	—	4,351
その他	10,680	21,055
営業外収益合計	29,033	113,832
営業外費用		
支払利息	21,048	23,182
固定資産除売却損	25	1,950
債権売却損	1,876	3,880
デリバティブ評価損	2,772	21,515
その他	—	12
営業外費用合計	25,722	50,541
経常利益	1,026,221	1,168,658
特別利益		
固定資産売却益	—	114,163
特別利益合計	—	114,163
特別損失		
固定資産処分損	5,164	—
特別損失合計	5,164	—
税金等調整前四半期純利益	1,021,056	1,282,821
法人税等	361,064	497,162
四半期純利益	659,992	785,659
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	659,992	785,659

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	659,992	785,659
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,692	△31,128
繰延ヘッジ損益	△2,530	23,257
為替換算調整勘定	96,881	348,788
その他の包括利益合計	102,043	340,917
四半期包括利益	762,035	1,126,577
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	762,035	1,126,577
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,121,708	1,935,275	10,056,984	—	10,056,984
セグメント間の内部売上高又は 振替高	307,301	3,539	310,840	△310,840	—
計	8,429,009	1,938,815	10,367,824	△310,840	10,056,984
セグメント利益	759,278	279,309	1,038,587	△15,677	1,022,910

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△15,677千円の内訳は、のれんの償却額△20,946千円、セグメント間取引消去5,269千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,283,180	2,397,350	11,680,530	—	11,680,530
セグメント間の内部売上高又は 振替高	312,045	6,945	318,990	△318,990	—
計	9,595,226	2,404,295	11,999,521	△318,990	11,680,530
セグメント利益	872,159	259,615	1,131,774	△26,407	1,105,367

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△26,407千円の内訳は、のれんの償却額△20,946千円、セグメント間取引消去△5,460千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。